

# NEUTRAL 通信 vol.7

「まるで本屋に立ち寄るかのように、アートやクラフトを気軽に楽しんでもらいたい」というNEUTRALのコンセプト実現に向け、NEUTRAL通信を発行しました！  
第7回目は現在EXTRA-NEUTRALにて展示を行う新鋭作家の中留雄太さん。  
NEUTRAL通信が作品鑑賞のヒントとなりますように。

## Spring

2023.04.15sat. - 5.14sun.



美術家

中留 雄太 / YUTA NAKADOME

2000年京都府生まれ。2023年3月に京都芸術大学 環境デザイン学科を卒業した中留雄太は自給や生活など、自身の経験をもとにした絵画の制作を行っている。2022年度 京都芸術大学 卒業展にて環境デザイン学科 学長賞を受賞。

## 堀川新文化ビルディング 館内インフォメーション

大垣書店  
OGAKI BOOKSTORE



SHOKODO  
KYOTO

NEUTRAL

Gallery P A R C  
GRAND MARBLE

4/13 に村上春樹先生の新作『街とその不確かな壁』が発売されました。こちらのタイトル、1980年『文学界9月号』にしか掲載されていない作品『街と、その不確かな壁』とタイトルがほぼ一緒ということで話題になりました。個人的な話になりますが先生のファンで、タイトルが決まって早々に京都府立図書館で『文学界9月号』を読みに行きました。果たして昔掲載された幻の作品との違いはいかに...!?ぜひ皆さまも読み比べてはいかがでしょうか。  
営業時間：10:00~22:00 TEL：075-431-5551

気温も暖かくなりすっかり春の陽気ですね。SlowPageには外観を象徴するような格子の大窓があります。気持ちのいい天気の日にはガッツとあけて春の風を感じたいものです。そんな店内で春の陽気を感じながら春メニュー等を楽しんでもらえればうれしいです!!  
営業時間：8:30~23:00 TEL：075-431-5551

合本 西村多美子『旅人 / りょじん』 Special edition "My Journey" by Tamiko Nishimura  
2023年3月4日[土]~5月7日[日]このたび 京都 昌幸堂にて 特別企画 合本 西村多美子「旅人 / りょじん」を開催いたします。本展では、写真家である西村の作品集「旅人」三部作を合本した特装版の紹介とともに、作品の銀塩プリントも展示いたします。また、特装版の合本・装丁は京都の職人によるもので、会期中は手製本に関する資料などもご覧いただけます。  
営業時間：10:00~18:00 TEL：080-4248-3432 月・日祝 定休

CITY from the WIND / Rebellion and Freedom  
RYUHEI YOKOYAMA SOLO EXHIBITION  
2023.04.08 sat. - 2023.04.30 sun.

忘却の海 内倉 真一郎  
2023.05.02 tue. - 2023.05.21 sun.  
営業時間：10:00~19:00 TEL：075-431-5537

「flow / float」大洲大作 Oozu Daisaku  
2023.04.15sat. - 05.14 sun.  
スペシャルトーク - Born by the River -  
佐藤守弘 [同志社大学文学部教授] × 大洲大作 [美術家]  
日時：5月14日(日) 19:00より(90分予定) 参加無料 / 予約不要  
営業時間：13:00~19:00 TEL：075-334-5085 水・木 定休



〒602-8242 京都府京都市上京区皂莢町287  
[アクセス]  
○地下鉄東西線「二条城前」駅より徒歩15分  
○京都市バス9番・12番・50番・67番系統  
「堀川中立売」バス下車徒歩1分  
○駐車場・駐輪場あり  
※満車の場合は近隣のコインパーキングをご利用ください。

ホームページ



Instagram



お問い合わせはHPまで





——小さい頃のお話をお聞かせください。

母から聞くと、小さい頃はとにかく外に行くのが好きで常に目を離せない子供だったそうです。自身の最初の頃の記憶では外遊びが好きで、小学生の頃は放課後になると秘密基地を作ったり、森を探検したり、そういう遊びをしていました。また、幼少期から高校時代までスポーツに明け暮れていました。絵は時たま描いていたくらいですが、描くことは好きだったと思います。

もともと大学では建築を学びたいと思っていて、受験前は、本を読んだり、建築を見に行ったりしていました。入学後、2回生の始めにパンデミックが起こり、授業の形態が変わったのですが、課題自体は大きく変わらず、そこにはあまり熱量が注げませんでした。ただ建築は好きなので、変容した暮らしだとか、リアリティのある設計や暮らしというのを、自分をサンプルとして、フィジカルを通して実践したいと思いました。将来、社会の変化にともない暮らしが激変する危機感を漠然と感じていて、安易かもしれないですが自給を思い立って、2回生の夏ごろから京都市左京区大原で畑を借りて野菜の栽培や稲作、小屋を建てて寝とまりしたりし始めました。

——影響を受けた作家はいますか。

建築が好きになったのは、幼少期の基地作りがあると思います。高校三年生の冬に十日間程でロンドン、パリ、バルセロナを巡って建築を見に行き、その時に世界が広がりました。バルセロナではガウディを中心に見たのですが、ガウディが自然の形態から着想を得て、合理性と有機性を調和させ、建築に取り入れて昇華していることに、感動しました。

この頃はまだ、アートのあまり関心が無かったのですが、ピカソ美術館に訪れた際に見たこれまで知っていたピカソの絵画とは別の絵画を見たときも、とても衝撃的でした。

その体験が建築とアートの垣根をなくしてくれました。今思えば、ガウディとピカソを一緒に見たことは、絵画を制作するきっかけだったのかな、と思います。有機的で、植物的で、とか、今描いている絵もそんな感じなので。

——作品について聞かせてください。

自分の作品は、景色や風景を自分なりに解釈し、感情と混ぜて制作したものと、と考えています。忘れてはいけないとか、身体が真実だと直感したものを表現しています。

今回の展示作品の3分の2ほどは今年3月に行われた卒業制作展で展示した作品で、何点か新作を追加しました。卒業制作展の時は、目に映ってくる色や形、匂い、素材感などから、風景としてさまざまな感覚に語り掛ける展示をしたいと思い、壁一面に絵を敷き詰める展示形式にしていました。今回の展示は絵画をメインにしていて、場所と場所とを繋ぐことを目指しました。

——現在の制作環境についてお聞かせください

大学生の時から少しずつ改装している町家に住んでいて、住居兼アトリエとして使っています。作品を描くには良いのですが、描きたい絵と環境とのギャップがあるといえますか……。実際に大原に行って自然と接すると、見えてくるものが違いますし、山の中で、畑があって、食と住が近くというか、そういう環境が一番心地いいだろうな、というのが心の中にあります。現状を悲観しているわけではないですが、なぜまだここに居るんだろうという葛藤があり、矛盾の中で生活しています。

——展示をご覧になる方に一言お願いします。  
自然体で見ただけなら、と思います。

好きな本



『森の生活』 D・ヘンリー・ソー  
(佐渡谷重信訳、講談社学術文庫)